

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370400576
法人名	医療法人 社団 昭和会
事業所名	むつみ苑
訪問調査日	平成 19 年 8 月 24 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4370400576
法人名	医療法人社団 昭和会
事業所名	むつみ苑
所在地	熊本県荒尾市荒尾317-1 (電話) 0968-62-3623

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 205号		
訪問調査日	平成19年8月24日	評価確定日	平成19年9月25日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 23 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	23 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(7 月 31 日現在)

利用者人数	27 名	男性	2 名	女性	25 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	8 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	関整形外科・荒尾市民病院・ふみ歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有明海を望む自然豊かな環境のもと、医療法人を母体としたグループホームである。各ユニット毎に玄関を設け、ユニット毎に一家族として清潔感溢れるホーム内で、仲睦まじく、くゆつりと流れる時間をのんびりと過ごされている。母体病院や同施設内でのデイサービスとの連携が密に図られ、入居者や家族へ医療面での安心を与え、また法人全体での研修会やホーム内での勉強会等職員のレベルアップに努め、緊急時のバックアップ体制も構築している。運営推進会議と家族会を隔月に開催しする事で地域との連携を深め、更に全家族の連帯感に繋げている。地域福祉の拠点として更なる発展に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議及び家族会において外部評価の指摘事項を報告・検討し改善に至っている。介護計画書の家族の署名・捺印の徹底と、UDに配慮した環境として、洗濯物干しの高さが検討されたが、入居者個々の能力に応じて出来ることに参加してもらうように変更している。外部評価の結果をもとに法人内及びホーム内での勉強会を開催し、質の向上が図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を全職員が理解し、1年間を振り返り、更にブラッシュアップしていきたいという意識を持ってユニット毎に職員が話し合いを重ね、介護支援専門員がまとめたものである。外部評価の訪問調査前に運営推進会議・家族会に意義やホームでの取り組み状況を説明し理解を得ている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年6月より2ヵ月毎に定期的な運営推進会議が開催されている。入居者の状況・年間計画又外部評価結果をもとに意見交換が行なわれ改善へ繋げている。運営推進会議と家族会を隔月に行う事で、家族会代表により説明が行なわれ、家族全員の共有化が図られ、委員及び家族の意見や要望を反映し、サービスの改善が図られている。運営推進会議及び家族会が質の向上に十分な機能を果たしていることが各議事録より確認できた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時の状況報告や毎月苑便りを配布し、家族への安心へと繋げている。特変時や遠隔地の家族へは写真を添えた手紙を出したり、電話連絡を行ない、家族との関係を密にしている。2ヶ月毎に行なわれる家族会が問題提起の場として機能しており、ホーム運営へ反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域行事への参加や自治会への加入又地域清掃活動への参加等地域と密接な関係を築いている。ホーム行事へも近隣住民の参加があり、中学生の職場体験の受入れや幼稚園との交流等も盛んに行なわれている。法人全体で行なわれる研修会にも地域の住民へ呼びかけを行う等地域福祉の向上を推進している。非常災害時には地域の協力体制が重要であり、運営推進会議を通じて地域への協力要請を確立され、更に地域との連携強化に努められる事を期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針の”真実味のある擬似家族として温かく、笑顔で楽しく協力し合い、普通の暮らしが行なえるように運営すること”を基本に、基本理念5項目を掲げている。“幸せな時を大切に、人としての生活の支援”や“今までの地域の仲間としての普通の生活の暮らしの支援”等、それまでの生活の継続の支援を中心に具体的なものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時の新人研修で理念に向けた教育が行なわれている。又、職員は日常、理念に即したケアが実践できているか見直しながらケアに取り組んでいる。「入居者の幸に基づくケアをしていきたい。」という職員の思いが入居者の穏やかな生活に垣間見えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入(入居者も加入者有)や区長も運営推進会議の委員として積極的にホーム運営に関わるなど協力的である。苑での行事の際には公民館にポスターを掲示し、近隣へポスティングを行い、多くの近隣の住民の参加を得ている。又中学生の職場体験の受入れや幼稚園の訪問等交流を深めている。職員も地域の清掃活動への参加や回覧板の受渡しを通じた交流を図る等地域に根ざした取り組みや多くのボランティア活動も継続して取組まれ、入居者や家族・地元の人々に楽しみも与えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎に職員で話し合い、各管理者がまとめた自己評価である。前回の外部評価の結果をもとにホーム内での勉強会や法人の他部署においても勉強会を開催し、質の向上に取り組むなど真摯に受止め改善が図られている。		

むつみ苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>平成18年6月を皮切りに2ヶ月毎の定期的な運営推進会議が開催されている。区長・行政・家族会代表・入居者等が参加し、活発な意見交換がなされ、意義深い会議であったことが議事録より確認できた。入居者の状況や年間行事計画の報告又外部評価結果の取り組み状況の説明等も行なわれ、運営推進会議と家族会を隔月に開催することで、家族会代表から家族へも十分な状況説明が行なわれ、家族全員の共有化が図られている。委員・家族の意見や話し合いをサービスの改善に活かし、ケアに反映されている。</p>		

むつみ苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席や申請手続き等の機会、認定調査訪問時等において情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に状況報告をしたり、苑便りも毎月発行し、家族への安心に繋げている。又、職員の異動については家族会で説明し、参加できなかった家族にも手紙で報告がなされている。遠方の家族や特変時等はTELでの報告や苑便りとともに写真を同封している。金銭管理もノートで管理され、確認体制も構築している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時が話を聞く機会と捉え、家族との密接な関係・交流を促進し、信頼関係を築き、気軽に言える環境を作り、家族の意見や要望をホーム運営に反映させている。2ヵ月毎の家族会は意見や問題提起の場とし、運営推進会議・家族会の情報の共有化が図られ、家族参加型のホームである事が窺われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置転換等、馴染みでの支援とダメージを最小限に抑えるよう、協議を重ね、家族への説明を行なっている。この1年間は配置転換や離職者は無い。管理者も“職員が財産である”との思いから全職員を常勤とし、働きやすい環境としている。開設より離職者も少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ、年間研修計画を立て目標を持った勉強会が行なわれている。外部講師による勉強会や施設長・管理者や職員が講師となりレベルアップに取り組んでいる。又、外部研修にも参加し、報告会の開催により全職員に周知徹底が図られている。職員の資格取得に向けた受験対策もホーム内で行い、個々のレベルアップに研鑽している。外部講師による研修会においては他のグループホーム職員や併設施設の職員・家族の参加もあり、地域住民への打診している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事に地域の施設を招いたり、グループホーム施設長会議に会場を提供する等、交流の機会を通じネットワーク作りや相互の質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に併設のデイサービスを利用してもらうなど、入居者にとまどいや不安が生じないよう支援し、家族との連携を密にしながら対応している。又、家族がいつでも宿泊ができる環境を整え万全の体制を取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の誕生日を前に得意な筆で“誕生日おめでとう”の張り紙を書かれる94歳の男性入居者や手の込んだ巻き寿司やいなり寿司を共に作ったり、野草の葉でくるんだ手作り饅頭をおやつに出したりと職員も先人の技を学びながら同じ思い同じ時を共有している。家族からのアセスメントで得た情報をうまく活用している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりがどう暮りたいかを本人や家族より聞き取りし、その実現へ向けできる事・したいことを見守り支援しながらケアに当たっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「KOMIチャートシステム」を使いどの部分を重点的にケアするのか、自立の部分は何かの分かりやすいチャートを使用しグランドアセスメントによりケア計画を導く根拠とし、ケア方針を立てている。入居者・家族の意向をもとに、入居者の様子や状態を把握し、日常的に話し合いの場を持ちプランに反映させている。一人の入居者が職員に見せる姿もそれぞれ違う事を認識し、情報を持ちより介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月毎、又変化があればその都度新たなプランを作成している。家族の要望や意見も取り入れ、プランの内容も説明され、家族の理解も得られている。昨年の評価より、家族への説明後署名・押印により確実性を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の中には同施設内のデイサービスで一時を過ごしたり、自発的なPTの協力により、ホーム内で訓練を受けたりと併設施設の機能を十分に生かし、柔軟な対応を取っている。デイサービスの特浴の使用等ハード・ソフト両面から多機能性を発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の支援により週1回訪問診療を実施し、入居者の状態の把握と変化の早期発見に努めるなど医療と連携した取り組みである。又、本人や家族の意向を尊重し、希望する医療機関への紹介等個々に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まずは入居時に家族との話し合いを持ち、重度化するたびに家族と方針を定め共有し、母体との連携によりいつでもできる体制を整えている。“最期まで見ていきたい”という職員間の意思も統一している。本人・家族の納得のいく終末期を迎える事が出来る体制が整っており、家族との協議を重ねながら実施されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者に対する言動は、取り繕う事無く自然であり、一人ひとりを理解し尊重した対応が見て取れた。時には方言が飛び交い普段どおりの生活の様子が窺える。ホーム全体で“心を理解する”ケアの実践に向けた取り組みである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース・生活リズムに配慮し、起床・入浴・食事時間も見守りながら支援している。早朝6時の入浴やトイレも誘導ばかりではなく、その人が行きたいときがトイレの時間である事や食事もその人が食べたいときが食事時間と認識し対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体病院の栄養士からアドバイスをもらい、健康へも配慮し、個々の嗜好も尊重しユニット毎に献立を作成している。施設内の無農薬菜園で収穫した野菜は毎日の食材となるとともに、入居者が四季の移変わりを味わったり、収穫の喜びを得ている。調理や配膳・洗い物や茶碗拭き・台拭きなど個々の能力に応じて職員と一緒にやっており、食への取り組みを楽しみの場として捉えている。「食べる元気があるなら、手伝いもせなん。」と意気揚揚と茶碗洗いをされる入居者もあった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望時間や温湯等個々に合わせ対応している。午後からの入浴となっているが朝風呂(早朝6時)の希望にも対応している。ゆず湯や菖蒲湯等もあり、フットバスで心地良い睡眠を促したり、併設施設の特浴等も利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を把握し、ホーム内での役割や楽しみが見出せるような取組みや工夫がなされている。食への関わりや花の水やり・毛糸の手編みのスポンジ作り、書道等多くの活動の機会や役割を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には食材の買出しや衣類の買物、又散歩等入居者の希望や体調に合わせて支援している。本人の外出意欲を尊重した取組みである。又毎年計画を立て、ホーム全体やユニット毎にバスハイク等も家族と共に楽しまれている。毎年行なわれている運動会をハイキングにしてみようという計画であり、新しい試みに期待したい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を研修会で認識しあい、日中は玄関を開放し自由に入出入り出来るようにしている。入居者の動きを観察し、見守りや寄り添うケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練と防災訓練が年1回ずつ行なわれている。昨年の12月には夜間召集訓練も行ない、火災予防の担当者と日常の注意事項や避難経路と消火器の位置確認等を行い、終了後に反省会を開き意見交換や業者よりアドバイスをもらっている。マニュアルも整備されているが、今のところ地域の方々の参加は得られていない。	○	運営推進会議に地区長の参加も有り、地域住民も行事等へは協力的なので、区長を通じて近隣の住民の方々へ訓練への参加を促され、協力体制を整えられる事を期待したい。

むつみ苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの習慣を把握し、食事摂取量を記録し不足や過剰な状態にならないよう健康管理を行なっている。母体病院の栄養士からの情報やアドバイスを得て栄養バランス等にも配慮し、入居者の状態に応じてキザミ食・おかゆ等へ変更している。おやつ時や散歩後又入浴後等には水分補給をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然豊かな環境で外部からの騒音も無く、ユニット毎に玄関を持ち、各ユニット内は明るく手作りの人形や古民具等を共有空間に配置し、入居者の心を和ませている。1階のユニットからは中庭を、2階からは有明の海を望め、UDが行き届いた廊下や浴室・トイレとなっており、各々が好きな場所で居心地良く過ごす工夫がなされている。“和と洋”がほどよくマッチした空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に保たれた居室は、家族の協力により使い慣れた家具や冷蔵庫・テレビ等が持ち込まれ、入居者が安心して生活できる場所となっている。各居室には洗面台も備えられている。		